

薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランに係る食品安全委員会行動計画 2016-2020
2017 年度進捗状況の確認について
(2018 年 5 月 17 日 薬剤耐性菌に関するワーキンググループ)

2017 年 3 月、食品安全委員会は、科学的知見・情報の収集、国際動向への対応及び情報発信といった薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価に係る課題に対し、リスク評価の一層の推進や向上に向け、2020 年度までに実施する行動計画を策定した。

行動計画では、具体的な行動として、評価の実施、評価の実施に必要な科学的知見・情報の収集及びその他の3項目の取組を行うこととし、その進捗状況を薬剤耐性菌に関するワーキンググループにおいて毎年確認することとしている。

項目	2017 年度の取組状況等
4-1 評価の実施	
(1) 評価の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下の抗菌性物質について評価を行い、評価結果を農林水産省に答申した。 <ul style="list-style-type: none"> ①ガミスロマイシンを有効成分とする豚の注射剤(ザクトラン メリアル)(動物用医薬品)(2017 年 7 月) ②酒石酸タイロシンを有効成分とする牛、豚及び鶏の飲水添加剤並びに蜜蜂の飼料添加剤(タイラン水溶散)(動物用医薬品)(2017 年 8 月) ・ 評価終了案件は、飼料添加物及び同系統の動物用医薬品で 26 物質・11 系統中 17 物質 5 系統、動物用医薬品の承認・再審査等で 31 件中 27 件終了(2016 年度末時点で 30 件中 25 件終了)となった。
(2) 再評価の適切な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 硫酸コリスチンの再評価の必要性を判断するため、評価書において更なる情報収集が必要とされたコリスチン耐性菌の発生動向や <i>mcr-1</i> 遺伝子の保有状況等に関する研究課題を 2017-2018 年度に実施している。(※4-2(1)と関連)
(3) 評価手法の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際機関の基準・指針等の改正動向や諸外国(欧州、米国等)のリスク評価手法の検討状況について調査した結果、2017 年度は特段の動きはなかった。今後も引き続き動向を注視し、評価手法の見直しを検討していく予定。 ・ 海外のリスク評価機関を招へいしてのワークショップ開催や訪問による意見交換を行い、評価手法について情報収集を行った。(※4-2(3)と関連)
4-2 評価の実施に必要な科学的知見・情報の収集	
(1) 評価に必要な調査・研究事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○食品健康影響評価技術研究 ・ 食肉由来腸球菌の抗菌性飼料添加物に対する耐性と多剤耐性伝達性プラスミドとの関係についての調査・研究(2016-2017 年度)

	<p>国内外の鶏肉におけるバシトラシン耐性の実態の一部(薬剤感受性等)を明らかにした。また、実際に使用されている動物種における検討、耐性プラスミドと多剤耐性とのメカニズム等に重点を置いた研究を実施した。</p> <p>○食品安全確保総合調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 畜水産食品における薬剤耐性菌の出現実態調査(水産関連プロトコルの試行)(2017年度) 2016年度に作成したビブリオ属菌を指標とした水産関連プロトコルの実効性を確認するための試行調査を実施した。今後、水産用医薬品の薬剤耐性菌に関する評価に活用予定。 ・ 食品を介してヒトに伝播される薬剤耐性菌に関する文献等調査(テトラサイクリン(TC)系抗生物質等に関するヒト医療における状況)(2017年度) TC系抗生物質等に関するヒト医療における情報(TC系抗生物質等を治療の推奨薬とするヒト感染症の発生状況、当該感染症の病原菌の薬剤耐性化の状況及び代替薬等)の収集及び整理を実施した。今後、TC系抗生物質の薬剤耐性菌に関する評価に活用予定。
(2)ワンヘルスサーベイランスへの参画及び積極的な助言等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会」においてワンヘルス動向調査の方向性に関する議論に参加し、年次報告書のとりまとめに協力した。(2017年10月公表)
(3)国内外の関係機関との連携・協力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農林水産省動物医薬品検査所(OIE コラボレーティングセンター)が実施するアジア諸国向けの薬剤耐性に関する研修において、食品安全委員会のリスク評価の仕組み及び手法について講義を実施した。(2017年10月) ・ 海外のリスク評価機関の薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価の担当者を招へいし、ワークショップを開催した。(2017年12月) ・ 英国及びデンマークにおける薬剤耐性菌の評価状況について担当者と意見交換を行った。(2018年1月)
4-3 その他	
(1)新たな知見・情報や課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、ワンヘルスサーベイランスの進展に応じて、課題を整理し、対応を検討していく予定。
(2)薬剤耐性に関する知識・理解に関する普及啓発の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品安全委員会 HP の薬剤耐性菌に関するページにおいて、食品安全委員会の取組について随時情報を更新した。 (http://www.fsc.go.jp/senmon/sonota/amr_wg/amr_info.html) ・ 食品安全委員会 Facebook を利用し、幅広く国民への情報発信(薬剤耐性(AMR)対策推進月間について)を行った。